

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300727		
法人名	社会福祉法人 仁和会		
事業所名	グループホーム聖心園		
所在地	熊本県人吉市南町8番地1		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気笑顔でその人らしく過ごして頂ける様な支援を心掛けている。家族、利用者と馴染みの関係もできており、ご家族も気軽に来園して頂いている。ご家族の協力も得ながら、母体施設への行事参加等で地域の方とのふれ合う機会を持って頂いている。医療面でも連携を図り、安全で安心して過ごして頂けるような支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

城下町人吉に開所して14年の歴史は、地域や家族、法人の支えに守られ入居者がそれぞれの役割をもって生活している。ひもときシートから見えてくる個々のこれまでの暮らし方から、ホームで取り組めることにチャレンジし、馴染みの関係性を人や場所に限らず、趣味や特技、こだわりまで広げ家族と共に継続できる環境作りに努力している。毎月実施される火災訓練には地元消防団の協力が得られ、法入行事の参加により顔なじみの人々と再会したり、特に文化祭では家族と共にステージに上がり、踊りをおどって参加するなど地域交流の一役を担っている。経年によるベランダの改装が行われたものの、共有空間や居室は10数年の時を感じさせない清潔感ある室内となっており、職員はトイレや浴室、洗面台などの水回りの衛生管理と、使い勝手を考慮しており、物品を大事にすることも入居者への支援に直結させている。本年度は特に各研修に力を入れており、職員のレベル向上に繋がっている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引き継ぎ時に、理念と援助目標を職員で読み上げ、意識付けをして共有している。	法人理念を基にホーム独自で援助目標を作成し、年度末には全職員で振り返りを行っている。離職の少ない安定した職場環境であり、入居者と職員の馴染み能力暮らしが出来ている。評価時にはそれらを含め親しいがゆえに馴れ合いにならない様、自己を戒める機会としている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本体での夏祭り、敬老会、文化祭へご家族も一緒に参加して頂き、馴染みのスタッフや近隣の方との交流をしている。近所の散歩や通院時も笑顔で挨拶を交わしている。町内の清掃活動へも参加している。	地域に根差したホーム作りを行い、町内清掃への参加や、外出の無い日でも庭先に出て道行く人や登下校中の小学生と言葉を交わしながら、地域の一員として過ごしている。法人主催の各行事に出向き、顔見知りの方との再会や、交流のある幼稚園児とのひと時が入居者の楽しみとなっている。協力医や歯科医は近隣にあり、職員と歩いて受診することも開所時からの取組となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	依頼がある時は、キャラバンメイトとして活動している。運営推進会議でも利用者の方にも参加頂き、日常の様子や活動状況を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者からのお尋ねや提案を伺い、すぐに対応できない時は次回の会議までに何らかの回答ができるように努めている。	年6回の運営推進会議を3回は、法人施設との合同開催とし、3回をホームを会場として単独で実施している。行政担当者や地域、家族の代表、入居者が同席し、活動や研修報告の後、AED購入について地域への啓発などを行っている。参加者から外部で起きた虐待についての質問にホームの基本姿勢を伝え、行政から介護保険改正に伴う変更事項が資料を基に紹介されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者のご家族の不安な事や近隣関係など市担当者へも相談し、解決へ向け取り組んでいる。	運営推進会議での行政の発言がホームに運営に反映され、各研修には職員の代表が参加して復講により共有している。管理者は書類提出や相談事で役所を訪れ、適切なアドバイスを受けながら入居者への支援に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を考え、玄関の施錠は行っている。門扉は閉めているが施錠はしておらず、自由に出入りができる。研修に参加し身体拘束をしないケアに取り組み、身体拘束での弊害を認識し業務にあたっている。	職員は外部研修や法人の身体拘束廃止委員会での研修を復講にて共有し、日頃から拘束や虐待について高い認識を持っている。入浴時のボディチェックで、入居者のちょっとした身体変化を見逃さず、夜間帯のセンサーマットについては、使用目的や経過をプランに入れ家族の了承を得ている。管理者はストレスチェックや個人面談を通じ、職員の精神的ケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へも参加し、高齢者虐待と身体拘束の関係性についても考える機会を持ち、職員間でストレスが強くない様に情報共有を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族からの成年後見制度利用について相談を受け対応し、研修資料や市のパンフレットにて学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約や改正時には、理解頂ける様説明を行い、入所前にもご希望があれば事前に見学をして頂いている。御家族の体調不良による経済的な不安に対しても市へ相談し解決に向け取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	遠方のご家族へ元気な姿を伝えたいという思いで書かれた手紙の郵送まで支援を行っている。ご家族の体調や心のケアも考え、外出調整行っている。意見箱も設置し意見を言ってもらえる様な関係作りに努めている。	職員は入居者との日々の関りから意見を聞き取り、「家に帰ってみたい」などの思いには家族と共有しながら支援している。運営推進会議には家族と入居者も参加しており、職員は意見の引き出しに努めながら、面会時や行事で家族と会う機会には率直な意見をもらう様投げかけている。	家族の意見を収集する手段として、質問内容を全員で検討し、アンケートを取ることも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の引き継ぎ時に、何か困っている事などないか聞いている。決定事項については連絡帳も活用し、情報の共有に努めている。話しにくい様な場面がみられた際は、個別に尋ねるようにしている。	法人の運営会議や月のケア会議、日々の申し送りなど職員が日頃の気づきや意見を提案する機会が多く、管理者を中心に全員で検討する場としている。法人関係者も定期的にホームを訪れては、入居者の様子を確認するとともに、運営推進会議での意見を運営に反映させるよう努めている。特に一日のスタートである朝礼時には職員に意見を求めたり、気になる点がないかなど心を配っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務への気付きや提案があった事項に対しては前向きに検討し、モチベーションアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の弱い所に気付き助言をしている。強みはもっと伸ばせる様に声をかけ外部研修への参加も少しずつできてきている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック会に参加をして災害、緊急時の対応、連携のとり方等学び、他職員や必要に応じて他部署へも情報を提供しサービスの質の向上へ取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にはご本人へ会いに行き、意向が確認できる方へは思いを伺っている。確認できない場合はご家族の意向や、本人が望んでいること、好きな事など伺い、本人の思いを知る努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に際して、本人とご家族の意向が異なる場合には両者の思いをしっかり受け止め、居心地の良い空間を提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には生活歴やADL、認知面等の把握を全職員で行い少しでも早く慣れて頂ける様に支援を行う。入所に対して、ニーズが合わない場合は必要に応じて他サービスの紹介を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護をさせて頂いているという気持ちを持って接するようにしている。本人のしたい事、出来る事、好きな事など会話の中や情報書より見極め、一緒に生活の活動を行い暮らしを共にして支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出できなかった利用者が、外食へ行こうという気持ちになり、ご家族と共に外食できたことを職員も喜んでいる。通院や外出など、ご家族の協力も得ながら、ともに支え合う関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方のご家族に手紙を書いたり、馴染みの美容室へ出かけられるようご家族にも働きかけて支援を行っている。	家族や知人の面会時には、リビングや居室で入居者との時間を楽しんでもらう様声かけをしている。排泄用品や日用品、本の差し入れが面会に繋がり、できる限り来所してもらうことで家族との関係継続に努めている。墓参や自宅への帰省、馴染みの美容室への外出等、入居前の生活ができる体制作りを工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別リハビリを2人一緒に行ったりソファに座ってもらい、話題を提供して利用者同士も交流できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所となった場合には情報書を作り、細かい習慣や本人、ご家族の思いを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向を伝えるのが難しい利用者へは、ご家族の意向も含め、本人の思いを汲み取り本人の言葉としてケアプランにも反映させている。	職員はリビングでの何気ない会話や、入浴や居室で1対1になった時に発せられた入居者の言葉を大切に受け止めており、必要な事項は家族と相談しながら対応に努めている。訴えの難しい入居者へはひもときシート(生活歴)を活用し、選択肢を投げかけたり、表情や行動から推察しながら本人の意向に近づく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、ご家族や入所前の担当者に会って話を聞き、どの様な生活を望まれているか等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤時に各利用者に挨拶をして状態の把握に努めている。また、日頃の会話や状態を把握しながら本人の出来る事に目を向けて残存能力を活かした支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひもときシート等も活用し、すべての職員が介護計画に関わっている。入院など状態の変化があった場合も面会へ行き、担当者から状態を聞き本人、ご家族の意向を伺いプランの見直しを行っている。	入居者の持てる力を最大限引き出し、ホームでの生活に個々の力が発揮できる内容や安心して暮らすことのできる支援を見極め、本人の意向として発せられた言葉そのものを明記している。家族への手紙が入居者の生きがいとなったり、廊下での歩行訓練を日課とする方、夜間の頻尿に日中集中できることに誘うことで安眠に繋げるなど、個々に必要なプランとなっている。定期的なモニタリングで修正の有無を見極め、入居者の現状に照らしながら立案している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きは引き継ぎ時や連絡帳へ記入し、毎日のケース記録も行い情報の共有をしている。必要時は、医務や主治医へも相談行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリをして歩いて自宅へ帰してあげたい、というご家族の希望を実現できるように支援を行った。本人や家族の希望を取り入れ、既存のサービスにとらわれない柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室より散髪に来て頂いている。プライバシーに配慮しながら、民生委員の方へのお尋ね等にも対応を行った。母体施設や幼稚園の運動会などに参加、見学を行い、地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には主治医の希望も伺っている。専門医や協力医療機関へ情報を提供し、適切な医療を受けて頂いているまた、退院時には、介護指導を受け、その後もリハビリも行っている。	入居時に主治医の希望を確認しており、以前からかかりつけ医であった方もおられ、全員が協力医による受診を支援している。専門医については家族によって対応されており、情報提供書を管理者と主任によって作成している。歯科については隣接する歯科医院と協力体制が整っており、治療が必要な時に家族を中心に受診されている。また、口腔ケアを重要視しており、研修会で支援方法などを学び、歯ブラシも個々や状況に応じて使い分け(歯間・舌・馬)ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化に対しては、毎日看護師へ報告し、必要があれば相談もしている。その結果、必要時は受診へ繋げ異常の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはそれまでの経緯やADL、認知面等の情報を担当者へ伝えている。安定されれば、病院担当者より状態を伺い、本人、ご家族の意向をふまえその後の対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化された場合の説明を行い、同意を頂いている。また、入院時や更新時にも、看取り等についての意向も伺っている。必要に応じて特別養護老人ホームの申し込みなどにも対応している。	入居時に看取りに関する指針をもとに説明を行う他、入院時や介護保険更新時などにもあらためて看取りなどについて意向を確認している。現在、殆どの方が特養への申し込みを行われている。職員は看取りに関する法人内部研修や、グループホーム研修会に参加しながら、ホームに出来得る支援や日頃の関わりの重要性を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急についての研修にも参加し、機器の取り扱いについても業者の方より説明を受け、取扱い説明書も目の届く所に保管し、実践力を付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災についての訓練を行い、近隣にもお知らせしている。地震や風水害についての注意点等の確認をしている。防災と消防署からの指導や、地域の消防団の協力も得ている。施設本体へ備蓄も準備している。	毎月、火災の発生場所や昼夜を想定した火災訓練を実施している。訓練では、東側のひまわり側、コスモス側と、居室名で場所を決めて声を出すようにしている。前回の訓練では、誘導の声が良く出ていたことや、動線を短くすることが重要であるなどの総評を受けている。年度末(3月)には、消防署の参加協力を得て実施予定である。備蓄については、法人が中心に確保している。	昨今の自然災害のもたらす被害は計り知れず、今後も熊本地震についても風化させることなく、机上でも訓練の実施が期待される。また、法人で確保されている備蓄については、リスト一覧をホームでも備えて置かれることを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎週1回は言葉遣いや接遇マナー、プライバシー等について職員と確認をして心にとめている。また、敬う気持ちを持って利用者の方へ親しみの持てる言葉かけをするよう努めている。	言葉使いをはじめ接遇マナーやプライバシーに関して周知を図る機会を持っている。呼称は基本的に苗字としているが、家族より下の方が反応が良いという情報など個々に応じて検討している。職員は入居者の目線に合わせ、声掛けや誘導を行っている。居室へ入る際も在室の有無に関わらず、ノックを行っている場面も確認された。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が元気な姿を知らせたいと希望され、写真付きの葉書を遠方のご家族へ送ったりしている。日々の洋服を選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や通院などがあった場合は、入浴日を前日に変更したりして、気持ち良く外出ができる様になど配慮をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ外出したり、スカーフを使用したり、洋服の好みを考え更衣してもらっている。髭剃りや化粧、整髪等その方にあった身だしなみやおしゃれができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯の炊きあがりの臭いを感じてもらい、メニューお知らせ、嚥下体操も行っている。食事中には音楽をかけ、ゆっくりと食べて頂いている。食事用のエプロンをたたんでもらったり、食後にはトレイ拭きもして頂いている。	主食のご飯と朝の汁物をホームで調理し、主・副菜などは法人厨房で調理されたものを利用している。ホーム内でご飯を炊くことは、食への楽しみを増すものとなっている。チラシ寿司や赤飯、カレーなどを好まれ、正月やひな祭りなど行事食も好評のようである。誕生会はその当日に祝っている。入居者が調理に関わる機会は殆どないが、トレイ拭きや味の評価など出来る事で食への関わりを持ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事と水分量のチェックをしている。水分摂取が少ない方へは、回数を多く提供している。食器もその方に合うような形態で提供している。栄養士や看護師とも連携をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方の状態にあった歯ブラシや舌ブラシ、歯間ブラシ、口腔洗浄液等も使用し、口腔内の清潔保持に努めている。夕食後には毎日、ポリデント使用されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意が曖昧な利用者に対しては排泄パターンを把握し定期的に声をかけトイレまで誘導している。排便のコントロールや薬も医務や主治医と相談しながら行っている。	自立(独歩や歩行器)でトイレに行かれる方が継続できる環境や、声掛け・誘導が必要な方のパターンを職員間で共有し支援している。現在は全員の方がリハビリパンツを使用されており、購入は家族に依頼することで面会の機会に繋がっている。購入にあたっては、種類など質問も聞きながら説明を行っている。夜間のみテープ式おむつや、ポータブルトイレを使用される方もおられ、使用後はその都度洗浄し清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶ゼリーも活用し水分摂取を促し、起床時には白湯を提供している。また、便秘予防の体操も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の様子や体調に合わせ、会話をしながらゆっくりと入って頂ける様支援を行っている。外出や外泊、通院などがあれば、前日に入浴して頂ける様に利用者の都合に合わせて入浴して頂いている。	夏場はシャワー浴も取り入れながら基本的に週2回、ゆっくり浴槽に浸かってもらう入浴を支援している。季節に応じて脱衣所や浴室の温度に配慮し、冬場の寒い時期は、湯冷めしないよう午後から行っている。湯温も好みに応じて入る順番を検討したり、肩の硬縮のある方には、上げ下げの声掛けを行うなど、個々に応じて支援している。季節の柚子湯も継続して取組んでおり、3日間実施し全員が楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子に座っている時間が多いので、ソファや座椅子に座って頂き、午睡の時間もとっている。夜間はベッドに入ってテレビを見ながら休まれる方もおられる。空調にも配慮し、濡れタオルの使用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が確認できるようにファイルにとじており、服薬時は必ず2人で確認し飲み込まれる迄確認している。変化があれば、医務や主治医へ伝え内服の調整等してもらい、その後の状況変化に気を配り報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクレーションでは、集団でのレクレーションやその方に合ったものを提供している。エコ袋作りや洗濯物畳みなどの手作業にも積極的に取り組まれ、役割としてやり甲斐を感じておられる方もいらっしゃる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先や近隣へ季節ごとの花を見に出かけている。また、本体での行事や慰問等にもご家族の協力も頂き出かけている。遠方のご家族の帰省時には家族の支援のもと外出や外泊もされている。	散歩を兼ね近隣の花の開花(桜・菖蒲・つつじなど)を眺めたり、玄関先でバスの往来や登下校時の子どもたちに声をかける時間も入居者の楽しみになっている。法人の行事(文化祭・夏まつりなど)には、家族にも参加を呼び掛けており、特に文化祭では、一緒に法被姿でダンスを披露している。また、法事や遠方の家族が帰郷した際、外食に出かけたり、介護タクシーで自宅へ帰る方など、地域や家族の協力を得ながら外出を支援している。	暑さや寒さ、感染症の時期など外出を控える時期には、引き続き採光の良いデッキ側に立って、庭先を眺める等外出気分を味わう機会を持たれる事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと、出張販売で買い物をされたり、現金を所持しておられる方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からプレゼントが届いたりすると電話でお礼を言われたり、葉書に写真を貼って近況を報告したりされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からの紅葉や木の実を眺めたり、玄関や廊下、ホールなどへ庭先の季節の花や物を飾って四季を感じて頂ける様に支援している。また、写真を飾ったり、クリスマスやお正月など季節の掲示を行っている。不快臭がない様、細めに清掃を行っている。	経年してもホーム内は手入れが行き届き、入居者や来訪者にとっても気持ちの良い時間を過ごせる空間となっている。リビングや洗面台、トイレなど共用空間に飾られた草花や外出やイベント時の写真の掲示などからも季節を感じる事が出来る。広めの廊下や手すりには歩行やリハビリ訓練の場ともなっている。	入居者が食事がすみ居室へ戻られたら、リビング食堂の換気を行うなど、小まめな取組が確認された。今後も季節の草花のある空間など、入居者が居心地よく過ごせる空間作りを継続していきたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は居室で過ごしたり、窓の外を眺めたりされている。ウッドデッキやソファも活用し、気の合った方同士で笑い声が聞かれる様な場を提供している。その時の状況で席替えも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持って来て頂いたり、家族の写真飾ったりなど、各々に合わせ、ベッドの向きなど考え居心地の良い空間を提供できるように努めている。換気を細目に行い消臭剤等の活用もしている。	備わったクロゼットにより衣類や排泄用品、季節外の寝具などが収納でき、ゆとりを持った居室空間となっている。家族の協力により馴染みの家具や書、自身の作品、書籍、思い出の写真などが持ち込まれている。荷物が増えた場合は持ち帰りを依頼している。また、棚の上には安全面から荷物を置かないようにしている。ベッドの向きや物品の配置についても、居心地の良さや移動の妨げになっていないかなども考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで車椅子の自走移動も安全にできている。能力にあった歩行器等使用され、車椅子の方もトイレの時等安全に立位ができる様に手すりも設置されており、できることはやって頂けるような支援をしている。		